

学校名	新座市立大和田小学校
実施日	令和3年1月19日

<記入の仕方>

○「自己評価」及び「学校関係者評価」の欄には、A～Dを記入してください。  
 ○「自己評価についての説明」の欄には、その評価に至った理由及び自己評価の結果を学校がどのように受け止めるかを明確にしてください。

評価項目「独自」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
1	私は、自己有用感の高い学校づくりに取り組んでいる。	A	・教職員自ら、児童の自己有用感を高めるための目標値を定め、児童の取組に対しての評価、また小さな成長を認めて褒め、育てることを心がけている。 ・コロナ禍ではあるが、可能な限り児童ができる取組に対して、目標を立てさせ振り返りを通し、自己の達成度を実感させ、肯定感を高めている。 ・懇談会や個人面談等で、学校と家庭で児童の良さの共有化を図っている。	A	自己有用感を高める目標値を定めていることにより、達成感を共有して取り組むことができると感じた。6年生が遠足を兼ねて総合運動公園で運動会のような活動をしたり、4年生や5年生が運動を取り入れた集会活動を行ったりしたことなど、学年ごとに児童主体の活動をするようすがうかがえた。今年度は運動会がなかったが、例年ような熱意のある取り組みだった。保護者の参観も可能日を割り振るなど、できる限りの対応をしているようでありがたい。
2	私は、ゴール(身に付けさせたい力)を明確にし、主体的・協働的に課題解決を図る授業づくりに取り組んでいる。	B	・全教科で、ゴール(身に付けさせたい力)は何かを明確にして授業実践している。特に、国語科では委嘱研究発表会に向けて、積極的に授業研究に取り組み、教員の授業力を高めている。 ・児童自身にもめあてを考えさせることにより、主体的・協働的に学習に向かう姿勢を育てている。 ・主体的・協働的な学習をさらに深めるために、単元ごと、1時間ごとの課題づくりを児童とともにやり、ねらいを意識した授業の展開を図っていく。	A	身に付けさせたい力を明確にするなど、ゴールを設定して取り組んでいるとのことで、こうした取り組みが着実に学力を高めていることがうかがえる。今年から新しく「協働」をテーマに加えたとのことで、児童がお互いの考えを交流する学習が一層深まることを期待したい。
3	私は、児童の『自分から』を大事にした主体的・協働的な教育活動に取り組んでいる。	B	・コロナ禍ではあるが、可能な限り児童が活躍できる場面を考え、主体性・協働性を引き出すことに努めた。 ・児童の『自分から』の学年ごとの具体的な姿、求めるレベルを共有し、大和田小6年間で培う力を明確にし、さらに児童の主体性・協働性を育てていく。	A	児童会の取り組みで縦割りのグループでスローガンを作成するなど、子ども達が活躍できる場を設けて主体的な活動を促している。コロナ禍で実際に子ども達の活動にふれることができなかったのは残念だが、継続して一人ひとりの有用感を高めてほしい。

評価項目「組織運営」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
4	学校は校務分掌や主任制を適切に機能させるなど、組織的な運営・責任体制を整備している。	B	・担当する分掌も含め、学年・ブロック、全体の中でそれぞれが自分の役目(主任、副主任等)を考え、連絡調整を行い、仕事を進めている。 ・働き方改革の視点から、実効性のある分掌の内容、仕事量を見直していく。	A	働き方改革の視点から役割分担等を見直すとともに子どもの学力の向上をめざして取り組んでいる。意識化も進み、デジタル化の進行でこれまで難しかったこともできるようになることにも期待したい。反省を生かして次につなぐ改善が行われているのはすばらしい。行事等の実施が難しい状況の中で、一つ一つ見直して意識化しているとのことで、今後の成果を期待したい。
5	学校は経営方針を具現化するために、学校評価の実施等を通じて、PDCAサイクルに基づく学校経営を行っている。	B	・共通理解・共通行動を意識して職員間の連携に務めて諸問題に対応している。しかし、全員で共有することの難しさがあるので、今後もコミュニケーションを意識的に取りながら共通理解を深めていく。 ・課題に対して積極的に検討する分掌を設置するなど、組織改善、課題改善に務める。	B	コロナ禍でこれまでにない困難も生じたことを考えるとA評価でよいと思うが、共通理解や共通行動の難しさもあり、組織運営に関することなので自己評価を尊重した。反省をもとに改善をすすめているとのことなので、ボトムアップのよさを生かして継続的に取り組んでほしい。
6	学校は事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等を作成し、迅速に対応できる体制を整えている。	B	・危機管理マニュアルに基づく、避難訓練を実施することができた。 ・反省から出た課題に対して、次の提案に向けて対応策を資料に反映させておくなど、改善に努めている。 ・平常時から、そのときどう行動をとるのか、教職員だけでは無く、児童自身の「自分の命は自分で守る」という意識を育てていく。	A	行事等を中止せざるをえない状況のもとで避難訓練を実施したことを評価したい。名札を付けずに校内に入ったら児童から誰ですかと尋ねられ、日頃の取り組みで意識が高いことを感じた。危機管理のような課題は反省を次に役立てることが難しいケースもあると思うが、引き続き子ども達の安全確保に取り組んでほしい。この度のコロナ禍の教訓も今後の危機管理マニュアルに備えられたい。

評価項目「学力向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
7	学校は、児童生徒が学習内容の理解を深めることができるよう、学習ルールを定め、それに基づいた授業を展開している。	B	・朝の「スイッチタイム」、昼の「復習タイム」、放課後の「寺子屋」学習など基礎基本の定着を図る取組を計画的に準備し、実践している。 ・「大和田小のきまり」を意識して指導している。きまりとして細かいものも多いので、今後、本当に必要かどうかという視点からも内容を見つめ直していく。	A	「スイッチタイム」や「復習タイム」など授業以外に学習機会が設けられ、一連の流れができていてすばらしい。地域や学生の協力を得て行っている「寺子屋」など、個々に応じた学習の取り組みも効果を上げていると思う。「きまり」の見直しは、子ども達の判断力を育てるためにも大切にしてほしい。
8	学校は、各教科の指導において言語活動を重視した授業を展開し、児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成に努めている。	B	・自分の考えをもたせてから話し合いに臨めるように工夫して取り組み、周りとの交流の場を明確にして授業実践に努めている。 ・話すことを大切にするとともに、「聴く」ことを大切に児童たちが安心して発言できる言語環境を整えていく。	A	自分の考えをもって交流する学習ができている。他の人の考えを「聴く」ことを重視しているとのことで、言語活動が充実していると感じた。お互いの考えを交流するためには、安心して発言できることが大切だと思うので、言語環境の整備に引き続き取り組んでほしい。
9	学校は学習指導要領や県編成要領、新座市指導の手引きに基づき、児童生徒の発達の段階や学力、能力に即した学習指導を行っている。	B	・新学習指導要領に基づく新しい評価基準を理解し、身に付けさせたい力(本時のゴール)を明確にし、課題とまとめの一体化を図る授業づくりを行っている。 ・高学年の教科担任制を生かし、教材研究の短縮、教材準備の負担軽減を進め、児童の一人一人の見取りの時間の確保を図り、児童の学習理解度を深めていく。	A	教科担任制は学力の面と働き方改革の両面から考えられているようで、ぜひ望ましい形を実現してほしい。小中接続の観点からも効果が大きいと思う。目標が高いからなのか、自己評価が厳しいように感じる。
10	学校は、英語(外国語・外国語活動)の授業の充実するなど、グローバル化に対応できる児童生徒の育成(国際理解教育の推進)に努めている。	B	・低学年が月に1度の頻度の頻度の実施に変わり、英語に触れる機会が減少している。教室掲示や校内放送などを工夫して普段から英語に触れる機会を作り出していく。 ・高学年は教科としてスタートし、教材研究・準備の負担が増えている。小学校外国語講師との連携を大切に、打合せや指導計画作成の時間を確保するなど、日々の指導力の向上に努めていく。	B	従来の英語活動から、教科学習としての英語学習への切り替えが難しそうだが、特区としての長い蓄積があるので今後に期待したい。

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
11	学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつをしたり、「です、ます」をつけるなど、場に応じた言葉遣いができるよう指導している。	B	・教職員がしっかりとした言語モデルになるよう丁寧な言葉遣いに努め、指導に務めている。 ・大きな声でのあいさつは難しいが、「自分から・進んで」という視点でできている児童が多い。あいさつ運動も継続的に実践し、高学年が模範となる機会をつくっている。互いに目を見てあいさつができるよう「心のこもったあいさつ」について指導していく。	A	あいさつは年々よくなってきている。教職員がお手本になる姿を見せ、高学年が自主的に取り組んでいるあいさつ運動もすばらしい。人との関わりの基本なので、継続的に取り組んでほしい。
12	学校は、児童生徒がいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さや努力を認め合って学校生活を送れるような環境を整備している。	B	・あたたかい学級づくりを目指し、友達のよいところを見つける、認め合う指導を意識して行っている。教職員のあたたかい言葉かけも大切に、お互いの良さを認め合う雰囲気づくりにも務めている。 ・問題行動がある場合、生徒指導部を中心に複数で対応する体制で指導を行い、早期解決に努めている。	B	児童数が多い中で難しいこともあると思うが、一人ひとりをよく見て取り組まれているように感じる。問題の早期解決に努めていることがうかがえる。
13	学校は教職員自らが手本となり、児童生徒に対して規律意識を高める指導を行っている。	B	・教職員が手本にならないと高い意識をもって児童たちの前に立つことを互いに確認し、きまりやルール of 共通理解・共通行動の務めている。 ・教職員の異動も多い職場なので、きまりやルールの確認の定期的に行い、児童への指導に役立てていく。	A	今年度は実際に子どもたちの様子に触れる機会が限られているが、教職員が定期的にルールを確認しあいながら範を示すという姿勢がよいと思う。子ども達は大人の背中を見ている。

評価項目「健康・体力の向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
14	学校は、児童生徒が体力向上に向け、体育や部活動・休み時間などにおいて意欲的に取り組めるよう指導に当たっている。	B	・コロナ禍であるため活動に制限がかかるものが多かった。学校全体という単位を細分化し、学年単位、クラス単位で実践ができるように、規模を工夫しできることを実践している。家庭内のできる体力アップも定期的に課し、校内では感染症対策に努めて、体を動かす機会の確保に努めていく。	A	コロナ禍で大変だと思うが、学年単位での活動など、工夫して取り組んでいるようで、すばらしい。体力アップカードなど継続的な取り組みが効果を上げていると思う。内容や取り組み方が改善されてきているのもよい。
15	学校は、食に関する意識を高める食育に取り組むなど、計画的に健康教育を推進している。	B	・楽しく会話をする給食は控えているが、調理員さんへの感謝を忘れずに給食をいただくよう指導している。地産地消の食材、コロナ禍で特別に提供された食材など放送や給食便り等で紹介し、食に関する意識を高めている。 ・家庭と連携し、提供された給食の完食や食事のマナーについても意識を高めていく。	A	コロナ対応の食べ方で大変かもしれないが、放送や給食だより等を利用して食材の産地を紹介したりしているとのことで、食育を大切にしているところが評価できる。是非継続してほしい。

評価項目「保護者・地域との連携協力」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
16	学校は、保護者や地域住民の意見を取り入れる機会を積極的に設け、学校に寄せられた具体的な要望や意見を把握し、適切に対応している。	B	・コロナ禍で地域との連携した実践を控えざるをえなかった。その中でもPTAとできることを協議し、活動が行えるように努めてきた。今後も、保護者・地域の意見に、真摯に向き合い対応できるように努めていく。	A	南口公園の花植えは中止になったが、校内についてはPTAと協力して引き続き取り組んでいきたい。感染予防のもとで難しいと思うが、できることは取り組んでいきたい。
17	学校は、学校だよりやホームページなどで、教育活動の様子や成果・課題などについて定期的に情報提供している。	B	・学校行事の中止、授業公開も行えず、日々の教育活動の様子について保護者自身の目で確かめることができなかつたので、情報担当やコンピュータ業務補助員と連携し、ホームページのこまめな更新に努めた。 ・学校便り、たより、スクールメール等でコロナウイルス感染症対策など情報共有ができるようにした。	A	HPの更新が増え、新しい情報に触れることができた。引き続き発信力を高めてほしい。一人一台の端末を用意しているとのことで効果に期待したい。機器の維持、更新も大変だと思うが、効果的に活用してほしい。
18	学校は、学校応援団組織を活性化させるとともに、保護者や地域と連携して声かけ運動、美化活動、不審者対策など、計画的に実施している。	B	・コロナ禍で学校応援団員に例年協力をいただいている活動のほとんどが実践できなかつた。代わりに保護者の方をお願いすることが多かったが、早めの事前連絡に努め、多くの方に協力をいただくことができた。 ・今後も学校応援団の意義や構成メンバーの理解を深め、連携した実践を行っていく。	A	事前の連絡をすることにより学校応援団の活動をさせていただいた。花壇もPTAの委員会と一緒に活動する機会があつてよかった。コロナ対応の状況で難しいところもあるが、できるだけ協力して活動していきたい。